

日常の尊さ

2年代表 藤原

ぼくはこの1学期を過ごして、生きていく上で最も重要なことを学びました。

休校期間中、学校にも行けず、友達にも会えず、出口の見えないトンネルの中に一人取り残された気持ちになりました。しかし、同時に、クラスメイト全員で受ける授業、クラスメイト全員で楽しく食べる給食、放課後先輩方と汗を流した部活動、今まで当たり前に行っていた日常がどれほど大切で、尊いものなのか初めて実感しました。もし、3ヶ月もの休校期間がなかったら『当たり前』という言葉の重みを知ることなく一生を過ごすことになっていたかもしれません。

今年度、様々な行事が中止になり、三年生とともに、今までの練習の成果を発揮するはずだった学総（学校総合体育大会）もなくなり、ぼくはできなかったことを並べて葛藤することもありました。

しかし、人生では、当たり前に行っていたことができなくなることもあるということ、それを今は前向きに捉えて、乗り越える試練の時なんだと考えられるようになりました。

これからは目の前の授業や定期テスト、友達との交流、部活動、どれも『当たり前』の日常を大事に一生懸命取り組んでいきたいです。

学校行事がなくなってしまった分、自分たちで今できる最大限のことを考え、実行していきたいと思います。